

たわわ



NPO 法人地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2012年12月27日

128号

NPO 法人

「地域で生きる障害者を支える会」

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

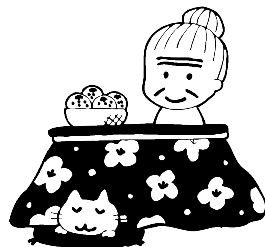
活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

お元気ですか！

皆で、ちょっと頑張っています



赤い実をつける植栽が、ついでに鳥たちと競争で、
南天や千両、万両、柊... と盛んに時を知らせています。

* * *

歳末とか師走とか、広告以外には、あまり聞かなくなりましたが、今年の12月は最後まで何やら落ち着かず、あと数日で新年を迎えるなんて信じられない～という感じです。

だいいち12月も半ば過ぎに国政の選挙なんてあまり記憶にありませんし...

そうした話題はともかくとして、私たち地域福祉のところでも、来春に向け、さまざまなレベルでの会議・会議の連続あり、見学あり、学習会あり... とともに、逃げ出したくなることを会員の皆さんの励ましあいでも踏ん張っている状態です。

* * *



そして、何よりもグループホームの現場です。どこへも出かけないのにウィルスをもたらしてしまった障害当事者はもとより、それを広げないために職員も家族もヘルパーさんも大奮闘でした（無事快復しましたのでご安心ください）。

事務局会議で報告もされ、今後への更なる備えについても話し合いましたが、改めて重度障害者の暮らしについて緊張をしたできごとでした。

* * *

12.6 見学 将来にわたるあんしん施策モデル事業のグループホーム「あゆむ会グループホーム」（理事長北村淑子氏）を見学しました。

看護師であった北村さんが、その経験と実績を生かして経営する、中途障害で重度の障害者となったご子息を含め10人中7人が経管食という重度の障害者が入居するホームでした。

さすがに訪問看護ステーションやヘルパー派遣の事業所も経営され、24時間そこからの看護師の派遣体制をとり、厳しい衛生管理のもとで生活が組み立てられていました。

個室は、それぞれに洗濯機などの水回りと炊事設備が備えられベットの居室のほかには小さな畳の部屋がついています。基本的に看護師によるケアですがヘルパーには、しっかりと



研修をする。例えば

- 目的意識をはっきり持つよう文書による基準を作る。
- 技術を教える（親しかわからないことも基準化する）
- 薬、個別の介助の仕方を教える ○必ず振り返りをする
- 勝手にやらない。やることには責任を持つ 等々。

また、心に働きかけることが必要として“教育”（心地よく生活できること、伸びる芽を伸ばすこと、我慢も必要なこと）を退職した教師の協力を得て行い、お互いの専門を尊重したいと語っていただきました。

これらのお話の中には、よつばの取り組んでいることもあり、学びたい事もありました。

いずれにしても、母親の長き戦いの末にできたという点での共通点では、分かり合えるものもありました。

「多くのリスクと隣り合わせでも、地域の中で普通に暮らさせたい」という願いと、「病院と同じように医療をだいいちにケアしたい」という考えのちがいは、他の人には評価できないし、すべきでもないのではないかと思います。

ただ私たちとしては、今後高齢化していくよつばホームのメンバーたちに、ただ“地域にふつうに暮らしている”ということを免罪符とすることなく、現在の活動の上により安全で、適格な判断によるケア、緊急事態でも常に連携が取れる医療との密接なつながりを用意すること。よく理解してもらえるヘルパーを安定的に派遣してくれる事業所との連携をしっかりと持つことが大切だと考えます。

12.7 障害福祉の明日を考える集い

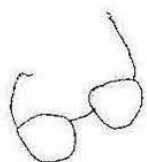
今年は、お天気に恵まれました。準備には、実行委員会（委員長石本隆司氏）のメンバーが夜遅くまで何度も会議をしたり、手配をしたりと大変なのですが、これまでは、雨や雪のため中止になることもあり本当に気の毒でしたし、その年は、アピールの機会もなくなりますので、今年は予備の日を決めて取り組みました。

いつものアドバルーンは、ヘリウムガスの不足のため3個だけでしたが、皆の想いを乗せて空高く上りました。横浜市への手紙を渡したり、障害者の主張があったり、主催者発表で1500人の参加者。アトラクションはフラダンスや勇壮な太鼓など、障害者たちの出演で感動的な集会となりました。「支える会」からも家族たちが参加しました。

12.12 活動ホームしもだ運営委員会開催

グループホームを考える会から要望書を提出しました。主な内容は、1.これまでの運営委員会型（A型）から法定ホーム型（B型）へ移行するに際し、NPO法人「げんき」のもとで活動ホームしもだに入るか、もしくは支援を受けたい2. 時期、あり方等については、「げんき」に相談させていただきたいが、場合によっては、必要なところから逐次法人に連結していきたい。3. 各館のこれまでの経緯を踏まえ、各館の活動はそれぞれで決め独立採算（この件は口頭で）とするというものです。

これに対し運営委員会では、前向きに検討し3月の運営委員会で決めることとしました。



めがねの声

◇12月9日は何の日...

12月9日は何の日ですか？皆さんはお分かりのこととおもいます。

9日は障害者の日です。毎年このころに、横浜市の活動ホームと作業所やグループホームの人たちが集まります。

「障害福祉の明日を考える集い」で、障害者の生活をよくしたり、安心な暮らしをするために横浜市に要望したり、自分たちの想いを言って市民の皆さんに理解していただくための大会です。

* * *

今年は暖かくてよい日でした。

いつも書くことですが、12月のこのころは、とても寒い日になることが多いのです。雨や雪で中止になることも多いので、今年は予備の日もとりました。

私の活動ホームでは、重い障害の人が多くのでだんだん希望者だけ参加するようになって、参加の人も減りました。私も希望して参加しました。私は、少し寒いのは嫌なのですが、いつも先輩の後姿を見て頑張れたり、教えられることも多いので、久しぶりに皆とお会いできるのが楽しみなので、行きたいと思いました。

みんなも寒い体験もしたり、お母さんたちも一緒に参加すればいいなと思います。

でも、9日が土曜日や休日になるときは、集会を7日や8日にずらしてやるのですから、もっと広げて考えて、暖かいときにやったらいいのではないかと思います。

* * *

1年に1回、横浜の北や南や東西のいろいろな地域から、障害者たちが集まる集会です。

大勢の人たちがふれあうことができるのは、とても大切なことだと思います。

この頃は、地震や津波など災害があるし、安心して活動したり、暮らしていくためにも、皆が会って、一緒にいい時間を過ごすことが安心にもつながると、私は思います。

大原友子

この一冊

ルポ 子供の貧困連鎖（光文社・保坂渉 池谷孝司）

大人の貧困については、日比谷公園の年越し村などによりセンセーショナルな話題となったし、いまでも独居高齢者の問題などよく報道されている。しかし子供の深刻な問題についてはなかなか知られることもなく、子供の貧困というただつぶらな瞳をうるませている外国の子供の写真を思い浮かべてしまうほどだった。しかしこの共同通信社が配信したシリーズをぜひ読んでほしい。以前に食費がなくて昼食の時間散歩をして過したという障害者のことも思い出しました。街で子供たちを見る目も変わるかも。

今年もいよいよ押し迫り、何かとお忙しいことと思いますが、みなさまいかがお過ごしでしょうか？

今年のカレンダーもいよいよ最後の1枚となりました。12月は何かと忙しい時期でもあります。よつばホーム入居者も例外ではなく、忙しい師走をすごしています。

障害者の集い

12月7日（金）横浜公園で、毎年恒例の『障害福祉の未来を考える集い』が開催されました。毎年、横浜市内の作業所、活動ホーム、グループホームなどからたくさんのなかまたちが集まります。よつばホームからは、大原さんが参加しました。

集いはこの時期なので、毎年寒さに震えながらの参加でしたが、この日は天候にも恵まれて暖かい中での開催となりました。

横浜市に向けてのメッセージや、当事者のダンスや和太鼓の披露もあり、暖かい天気の中、おおいに盛り上がりました。

大原さんも充実した日をおくれた様です。

感染性胃腸炎？ノロウイルス？

新聞、ニュース等でも報道されています様に、世間ではノロウイルスが猛威をふるっています。集団感染や死者も出て、過去最悪になりつつあるとも言われています。ノロウイルスの特徴としては、感染力が強く、接触や空気を介して感染することなどがあります。更に石鹸やアルコール消毒が効かない、特効薬や抗生物質がないなど、非常に厄介なウイルスなのです。

そんな怖いノロウイルスによる感染ですが、よつばホーム入居者も他人事ではなかったのです。

個人的な意見ですが、ある意味感染は防ぎようがないと思います。入居者は日中の活動へも行きますし、外出プログラムで公共交通機関を利用することもあり、24時間無菌室の中で生活している訳ではないので当然感染する可能性はあるということです。

大事なのはスタッフが正しい知識をもって対応し、適切な処理をして2次感染を防ぐということです。

入居者は免疫力が弱いので感染する可能性は高く、重症化する恐れもあります。それを抑えるためにも知識同様、発生後の初動や適切な判断なども重要となってきます。

その為にもスタッフは普段から入居者と蜜に接することで平常時の健康状態を把握し、微熱や微妙なしぐさの変化など気付ける準備を心がけることが必要となります。

アルコール消毒が効かないノロウイルスですが、85℃1分以上の加熱、次亜塩素酸系の液（キッチンハイターなど）を薄めたもので死滅するそうです。

そしてこれからインフルエンザが流行する季節がやってきます。グループホームでも正しい知識をもって予防していきたいと思います